

外後方散乱光撮像型分光計 (NASA の EOS-Aura 衛星搭載)
 OPUS : Ozone and Pollution monitoring Ultraviolet Spectrometer 広域大気汚染監視紫外線分光計
 PRL : Physical Research Laboratory インド物理学研究所
 PSCs : Polar Stratospheric Clouds 極成層圏雲
 QBO : quasi-biennial oscillation 準2年周期振動
 QASUME : Quality Assurance of Spectral Ultraviolet Measurements in Europe 欧州内紫外線スペクトル測定品質保証計画
 SAGE : Stratospheric Aerosol and Gas Experiment 成層圏エアロゾル・気体成分観測センサ (I, II, III まである)
 SSAI : Science System and Applications Incorporation (NASA の契約会社)
 SBUV : Solar Backscatter Ultraviolet Instrument

太陽後方散乱紫外線センサー (NIMBUS-7衛星搭載)
 SCIAMACHY : Scanning Imaging Absorption Spectrometer for Atmospheric Cartography 大気成分地図作製用走査型撮像分光計センサ (ENVISAT 衛星搭載)
 SHADOZ : Southern Hemisphere Additional Ozone-sondes 南半球付加的オゾンゾンデ (観測ネットワーク)
 SLIMCAT : Single Layer Isentropic Model of Chemistry And Transport 大気化学・輸送モデル
 SST : Sea Surface Temperature 海面温度
 TOMS : Total Ozone Mapping Spectrometer オゾン全量地図作製分光計センサ
 TRACE-P : TRansport And Chemical Evolution over the Pacific 航空機による太平洋上空の化学物質輸送・変質過程観測

第2回天気予報研究会開催のお知らせ

日時：2005年2月18日(金) 13時30分～17時30分

場所：気象庁大会議室(気象庁5F)

千代田区大手町1-3-4

主題 「新しい観測システムの短時間予報への利用」

総合講演

鈴木 修(気象研究所気象衛星・観測システム研究部)

「新しい観測システムとシビア現象の監視・直前予測での利用について」

講演

1. 原 基(気象庁予報部予報課)

「沿岸前線と低層ウィンドシアー」

2. 吉野勝美(全日本空輸(株))

「首都圏に発現する激しいメソ擾乱の1パターン」

3. Randolph Ware(代理発表 門倉克矩)
(Radiometrics Corporation)

「マイクロ波放射計プロファイルデータを用いた短時間空港気象予報」

4. 山下順也(気象庁観測部観測課高層気象観測室)

「ウィンドプロファイラーが捉えた台風第16号の構造変化」

5. 味崎利光, 鈴木智幸(航空自衛隊気象業務隊)

「衛星赤外データを用いた台風の時空間変動解析」

6. 石川直広(気象庁予報部数値予報課)

「雲解析と3次元変分法を用いたモデルの初期値化」

7. 瀬古 弘(気象研究所予報研究部)

「1999年7月21日の練馬豪雨をもたらした降水系の同化実験」

8. 八尾 孝(気象大学校)

「注警報発表作業におけるプロファイラーなど観測資料の活用」

9. 富山芳幸((株)ウェザーニューズ予測値精度向上研究所)

「災害予防段階の意思決定と情報」

各発表の講演要旨は天気予報研究連絡会ホームページ(気象学会 HP → 研究連絡会ページ → 天気予報研究連絡会 HP, または

<http://members.jcom.home.ne.jp/tenkiyoho/>) をご覧下さい

主催：日本気象学会天気予報研究連絡会

問い合わせ先：連絡会事務局：山岸米二郎

(tenkiyoho@jcom.home.ne.jp)